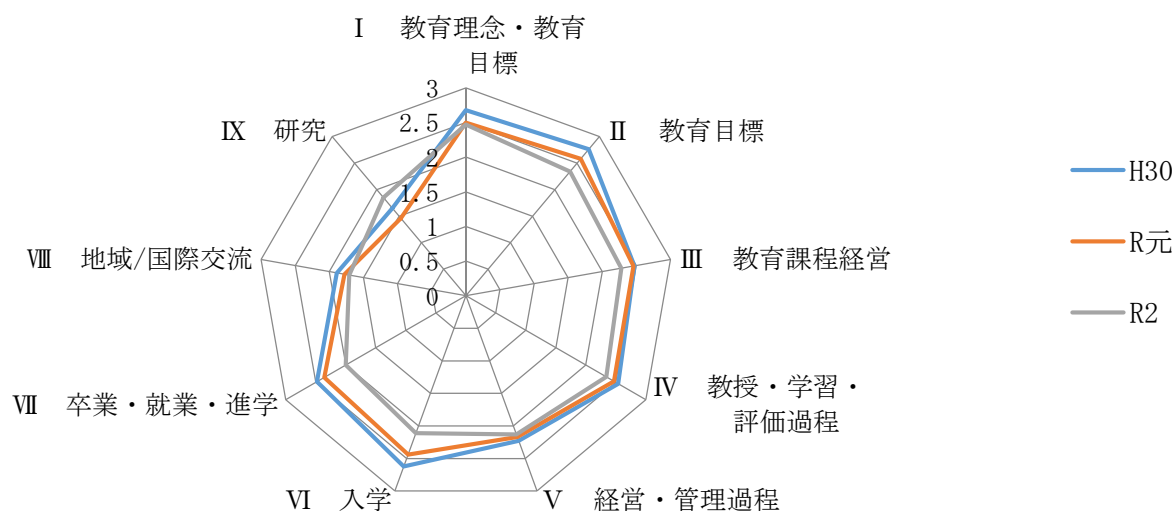


令和2年度の自己点検・自己評価の結果

カテゴリー	H30	R元	R2
I 教育理念・教育目標	2.68	2.5	2.47
II 教育目標	2.76	2.58	2.34
III 教育課程経営	2.47	2.46	2.28
IV 教授・学習・評価過程	2.54	2.47	2.34
V 経営・管理過程	2.23	2.17	2.13
VI 入学	2.62	2.44	2.11
VII 卒業・就業・進学	2.48	2.36	2
VIII 地域/国際交流	1.89	1.78	1.71
IX 研究	1.65	1.46	1.85

自己点検・自己評価点の平均



令和2年度の自己点検・自己評価のまとめ

1. I 教育理念・教育目標

教育理念・教育目標に関する項目は、評価の低下はみられたが引き続き全体的に高評価であった。カリキュラム改正では、社会情勢や上越地域の現状から看護基礎教育が何を求められているかを把握し、当校の教育理念・教育目的及び卒業生の特性を全教員で検討できたことが結果につながっている。しかし、教育理念・教育目的が卒業時の到達度を明確にしている、妥当性があるかという項目では、前年度と比較して低下している。よって、新カリキュラム検討時に重点課題であった社会人基礎力・看護実践力について卒業時の到達度を検討していく必要がある。

2. II 教育目標

教育目標では、教育活動のゴールの明確さや具体性の項目で、評価が前年度と同様で低値であった。よって、I 教育理念・教育目標における卒業生の特性の評価では、レベル目標を明確にしていく。

3. III 教育課程運営

教員の教育・研究活動の充実の項目は、前年度と同様に評価点が低い状態である。

臨地実習指導により、学内授業の授業準備(教材研究)・リフレクションの時間確保ができていないことが課題である。教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えているという項目の評価は、実習指導教員の各グループへの配置により、やや上昇がみられている。今後は、実習指導教員と教育方針・指導を共有できるように、学習会を検討していく必要がある。また実習指導教員の役割を再検討し、専任教員と協働できるようにしていく。

研究活動の充実では、研究授業規程を定めて研究授業を定期的実施できており、教員が相互に成長できるよう相互研鑽のシステムを整えているという項目では、評価の上昇がみられている。今後も継続的に実施していく。

4. IV 教授・学習・評価課程

授業展開過程における評価の考え方が明らかにされていない。IIにおける卒業生の特性のレベル目標を明確にし、各教員の教授活動の評価規準を検討していく必要がある。

5. V 経営・管理過程

この項目は、前年度と引き続き全体的に評価点が低い状態である。各項目で記述していく。

1) 設置者の意思・指針

今後は理事長を含めた本部の考えが理解できるように、今後も引き続き職員会議や回覧により教職員に明示していく。

2) 組織体制

教員採用・育成等では、教育理念・教育目的に立ち戻り実施していく。

3) 財政基盤

教職員が当該年度の収支決算・次年度の予算案について理解できるように、職員会議で説明することを継続していく。

3) 施設設備の整備

校舎や実習室の備品について教職員の意見をきくことで現状を把握し、学生の教育活動に必要な設備の改善や備品購入の計画を検討する。その意見を踏まえつつ、事業計画を用いて管理者の考えを職員会議で教職員に明示していく。

4) 養成所の運営計画と将来構想

本部の考えた方については、理事会等で報告があった場合は、職員会議で教職員に確実に伝えていくことを継続する。

5) 自己点検・自己評価体制

事業計画での次年度の取り組み課題を検討する前に自己点検・自己評価表を実施し、その結果の分析・改善策を反映することができた。今後は、教職員全員で結果の分析・改善策を検討していく体制が必要である。

6. VI入学について

入試面接評定表のレベル・基準の見直しにより、一貫性をもって入学者選抜ができています。今後は、カリキュラム改正を踏まえて入試面接評定表の基準の見直しを行っていく。さらに、退学者数や卒業生の現状から選抜方法の妥当性を分析する必要があります。

7. VII卒業・就職・進学

就職先への訪問を継続していく必要である。また卒業生にアンケートを検討しているので、実施・分析していき、教育課程に反映していくことが重要である。

8. VIII地域/国際交流

新型コロナウイルス感染症の蔓延が続き、ボランティア要請が減少して活動が難しい状況であった。今後は、上越市のボランティア活動と連携しながら、地域に対しての門戸を広げ、地域に上越看護専門学校を発信するとともに貢献できるようにする。

9. 研究

長岡医療と福祉の里学会の担当者が活動を行っているが、成果を上げることができていない。III教育課程運営の課題を改善し、教員全体で取り組み、共有していくことが必要である。